

第2回一宮町まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

◇日 時：令和3年11月24日（水）10：00～12：10

◇場 所：4階議員控室

◇出席者：馬淵町長、川島副町長、藍野教育長

（委員）別紙「委員名簿」参照

（事務局）企画課 渡邊課長・鶴沢・高橋

（オブザーバー）ちばぎん総合研究所 久山

◇欠席者：岡部委員、五十嵐委員、秦委員

1. 開会

（内容省略）

2. 町長挨拶

- ・まち・ひと・しごと有識者会議には、これまで町長や町の幹部は参加しなかったが、総合戦略は町の方向性を定める重要な計画であるという点を鑑みて今回からは参加することとした。
- ・現行の総合計画と総合戦略は内容が似通っており、それぞれの計画の終期もほぼ同じであるため、今回は両者を一体的な計画として策定する方針。時代潮流や国の地方創生の方針の変化をふまえながら策定を進めている。
- ・今後5年間の一宮町の在り方を方向付ける計画であるため、委員の皆さんの忌憚ない意見を頂戴したい。

《事務局より》

- ・今回の会議は委員14名中の11名が出席（委員3名は欠席）
- ・今回から新たな委員として千葉大学予防医学センターの花里先生に出席いただいている。工学系の知見が豊富かつ一宮町出身とのことで委員をお引き受けいただいた。

3. 議題

(1) 会長・副会長の選出について

- ・委員より事務局一任との意見。
- ・事務局として、会長は関谷委員、副会長は鶴野澤委員を選出したい
→全員異議なく、会長に関谷委員、副会長に鶴野澤委員を選出

- (2) 第2期「一宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標及び重点戦略について
・(事務局より資料①に基づき説明)

《質疑応答》

- ・【議長】総合計画と総合戦略の位置づけ方は自治体によって異なる。事務局としては総合戦略をもって総合計画の意図も包含するといった方針とのこと
- ・【委員】資料①の3ページ基本目標にかかる具体的な取組策の中で「検討」という表現が目立つ。「認定する」や「～をやる」といった表現との違いは何か。
 - ⇒【事務局】「検討」はこれから計画をつくってゼロからスタートするもの。「認定」や「～をやる」などは計画が立てられていて具体的な推進策が決まっているもの。
 - ⇒【議長】それぞれの表現ではどれぐらいのスパンを意図しているのか。
 - ⇒【町長】全体として5年の間に具体的な形をつくりたい。個別の取組については企画課に問い合わせしてほしい
- ・【委員】資料①の2ページに挙げられている課題で「働く場の確保」がある。企業誘致や雇用の誘導などを基本目標にかかる具体的な取組策に加えるべきではないか。
 - ⇒【事務局】町としては、既存の事業者の雇用拡大を支援していきたい。新たな産業誘致は具体的な施策が立てづらい。良い方法があれば委員より提案いただきたい
 - ⇒【委員】事務局の考えは承知した。この有識者会議の場で検討したらどうか。他の委員の考えを聞きたい。
 - ⇒【町長】例えば、人材バンク（子育て親の空き時間などで）など町で行うことができないかと検討したが、結局は民間が行ったほうが効果出るという結論になったので、取組策から除外している。
 - ⇒【委員】一宮町では宿泊施設が増加しており人手が不足している。施設側と空き時間で仕事をしたい人のマッチングの窓口が町にあると良い。また、道の駅の設置検討との取組があるが、もし実際に設置するのであれば近隣の自治体をも巻き込んだ規模の大きいものが望ましい。そうすれば町の雇用改善にも資するだろう。
 - ⇒【委員】前回の総合計画でも、まちづくり委員として計画策定に関わってきた。前回の総合計画の内容は町民すべてを幸せにするために必要なものと思うが、今回の重点戦略では踏襲されていないものもある。10年でそんなに町の姿が変わっていないなかで、総合計画で前回決めたものが消えてしまうのは納得いかない。10年前に住民と一緒に決めたものが今回の計画からなくなる理由をしっかりと説明してもらいたい。住民の心の問題が忘れられているんじゃないか。

- ⇒【町長】前回の総合計画で挙げていた課題ですでに解決したものもあれば、解決できていない課題もある。前回の総合計画でも今でも有効性を失ってはいない。したがって総合計画の全面改訂ではなく、前回の総合計画をどう引き継ぐかという視点も考慮したうえで今回の総合戦略を策定している。今回の総合戦略は前回の総合計画をベースとしている。名称は変わるが前回の総合計画を十分に活かした内容になっている。
- ⇒【委員】総合計画で大切なのは、住民が策定にどれだけ関わったかということ。前回の総合計画策定の際には組織されていたまちづくり委員会が今回何故なくなってしまったのか。ここが一番の問題だ。
- ⇒【町長】前回は委員会スタート当初はある程度多くの方が集まってくれたが、回を重ねるにしたがって参加人数が減っていった。現在では住民に声をかけても参加してくれる住民は少ないと思う。住民の声を聞くという点では、今回は町民アンケートを行っているし、日頃住民の生の声を聞いている職員の意見をふまえて策定している。
- ⇒【議長】総合計画と総合戦略では根拠法は違うが、重点施策を立てて推進していくという点では一致している。両者を計画の中でどのように位置づけるのが課題。前回の総合計画の自己評価などを盛り込めば、総合計画との繋がりも分かりやすいのではないか。
- ⇒【町長】総合計画の自己評価は庁内で実施済みである。
- ⇒【委員】評価結果を是非とも委員の方々にも配布してほしい。
- ⇒【町長】HPでも公開しているが、ほしい方は事務局に個別に言ってほしい。
- ・【委員】近隣自治体での広域連携は機能させるのが難しいが、長生郡市は特に上手くいっていない。今回の施策でも広域連携に関する取組が何もない。何か広域連携を模索する方向性は出せないものか。ワクチン接種や農業における新規就労など仔細にみると上手くいっている取組があるので、そういった取組を評価するという点でも良いと思う。
- ⇒【町長】広域連携において特に違和感はない。近隣町と行っている有機肥料センターなどはしっかりと機能しているし、給食センターについても長生村から連携の打診がきた。公共施設の圏域化はこれからも進んでいくと思うのでその中で連携できるものは連携しながら進めていきたい。ただ、予算配分が課題で広域連携がうまくいかなくなるケースはあるので、予算の問題は適切に対処したい。広域連携については、手元の資料では記載していないが、取組の中に盛り込む方向で検討したい。
- ⇒【委員】広域連携を行う際に職員の派遣数が少ないと影響力が弱くなる。広域連携では職員配置についてももう少し考えるべき。

- ⇒【委員】施設整備における予算や職員配置の話だけでなく、長生郡市の職員同士の連携や情報共有を深めるなどできることがあるのではないかと。
- ⇒【町長】いすみ市から日本遺産申請の話がきたときには一宮町としては快諾した。一宮町側から他の自治体に呼び掛けた案件はほとんどないが、自ら呼びかけることは決してやぶさかではない。近隣市町の寺社仏閣めぐり等は可能性があると思うが、県が行う役割と重複しないように注意する必要がある。
- ⇒【委員】長生郡の圏域での求人開拓などハローワークで協力できることもある。
- ・【委員】資料①の 3 ページの取組策については時間軸の明示も必要ではないか。また、企業誘致をするのだったら、用地整備などは難しいかもしれないが、例えば企業に合わせた個別の相談体制などのソフトの部分に焦点をあててはどうか。
 - ⇒【事務局】具体的な取り組み時期は、それぞれの取組策における個別計画に委ねている。
 - ・【委員】交流人口や関係人口を増やすための民間組織の在り方を検討する必要がある。柏市などでは行政の下部組織のような形でまちづくりの住民組織がある。一宮町でもそういう場を設ければ、企業誘致などの様々なアイデアにつながる。
 - ⇒【町長】以前、個別施策を検討する際に 99 人委員会を立ち上げたケースもあったが、かつてほどの熱気はなくなり、実際に参加していただける住民も少ないのではないかと感じている。いいアイデアをもってる住民はいるものの、継続的な会合ともなると参加者は限られてしまう。ここを上手くやるアイデアが委員からあれば教えてほしい。
 - ・【議長】まちづくりに必要な住民の力をどう引き出すかが重要。住民が持つ良いアイデアを引き出すための手法が問われている。また、広域連携については、まちづくりの資源を単独自治体で用意するのは限界であるため今後も検討が必要。分野に応じた連携の在り方を検討するべき。

(3) 令和 2 年度地方創生事業の効果検証について

- ・(事務局より資料②に基づき説明)

《質疑応答》

- ・【委員】シェアハウス Suzumine についての記載がないのは何故か。
 - ⇒【事務局】今回配布した資料は地方創生拠点整備交付金事業にかかるものであり、シェアハウス Suzumine は地方創生加速化交付金であるため記載していない。
- ・【委員】この資料は今回の有識者会議のために作ったものなのか。
 - ⇒【事務局】内閣府への報告資料として作成したもの。

⇒【委員】数値を用いて進捗評価を行うのは良いことだと思う。レンタサイクルの観光消費額はもうやって出したのか。

⇒【事務局】レンタサイクルの利用者数に一人当たりの観光消費額(約 3,000 円)を掛け合わせたうえで、コインロッカー代などを足し合わせて算出したもの。

・【委員】資料②の 3 ページの移住相談の件数があるが、そもそも一宮町が移住相談を行っていることを知らなかった。また、友人間でも「仕事をどこで探したらいいか分からない」という声も聞かれる。町が行っている業務について、情報をウェブサイトで見たり公開したら良いのでは。

⇒【事務局】今後に生かしていきたい。

・【委員】プログラミング教育での千葉工大との連携はすでに終了してる。柏市など県北西部の自治体が ICT 教育の先進的な取組を行っている。GIGA スクール構想のもとで分かったのはインターネットの接続環境が良くない。この点予算を配分して進めていってほしい。

⇒【町長】ロボットプログラミング以外にも新たな ICT 教育の展開も探らないといけない。その点、委員の中で知見がある方は町に教えてほしい。

・【委員】観光消費額が大幅に増加しているが、これはコロナの影響を受けたうえでの数値か。

⇒【町長】経年変化の資料が必要だったら提供する

⇒【委員】サーファー数は町として爆発的に一気に増えたほうがいいのか、それとも地道に増え続けたほうが良いのか。

⇒【町長】オーバーツーリズムにならないよう徐々に息長く増えていってほしい。ただし、サーフィン大会を誘致するなどして、サーファー数を一時的に大きく増やすようなイベントもカンフル剤的に必要だと考えている。

・【委員】サーフィンの競技者数は将来的にどうなっていくとみているのか。

⇒【町長】サーファー数は現状では頭打ちとなっており、10～20 代の競技者は減少していると聞いている。今後、国内全体では縮小するかもしれないが、一宮町ではサーフィン用プールを設置して子どもでも安心してサーフィンをできる環境を整えたりとか、海外からの来訪者を呼び込むなどしてサーファー増加に努めていきたい。

⇒【委員】町としてサーフィンを前面に出した計画を策定することについて住民としてどのように捉えていると考えているのか。

⇒【町長】好感のひともいるが、そうでない人も一定程度いると承知している。

⇒【委員】今回の計画ではサーフィンをどのように位置づけるのか。

⇒【町長】前回の総合戦略はサーフィンを活かした町の活性化といった攻め中心の内容。今回はそれと合わせて住民の生活基盤を整えるといった守りの施策も盛り込んでいる。しかしながら、今回の計画においても引き続きサーフィンの比重は大きい。

⇒【委員】サーフィンを軸とした計画に反対の住民もいる。サーフィンに賛成の住民と反対の住民との融合も必要ではないか。

⇒【町長】サーフィンという競技は紳士的でグレードの高いもので、その舞台としての一宮町ということで住民には捉えてもらいたい。町で共有する文化としてサーフィンを推していきたい。

・【議長】交付金事業の評価を行ったうえで、どのように次の行動に結び付けていくかが重要だ

4. その他(事務局より)

・アンケート報告書や総合計画事業評価の資料は町の HP にもアップしているので適宜で確認いただきたい

5. 閉会

以 上